

自 学 自 治

自分のよさや可能性を広げ、
主体的に学びに向かうことのできる生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びを通して～



郡上市立八幡中学校 公表会

令和4・5年度 美濃教育事務所・郡上市教育委員会指定研修校

学ぶ姿のモデルは 牧野富太郎

NHKの朝ドラ「らんまん」を見て、牧野富太郎という人物の存在を知りました。

土佐で生まれ、小学校も中退した富太郎ですが、植物に対する誰にも負けない情熱が運命を切り拓いていきます。日本全国の野山を駆け巡り、40万点の標本を集めます。数多くの新種を発見し、1500種類以上の植物を命名しました。

富太郎は、幼いころ、名教館で英語や中国の学問を学びました。そこで身に付けた力をもとに、興味のあるものをしっかりと観察し絵に表しました。また、本草綱目啓蒙といった本を参考にして調べたり、小石川植物園や博物館を訪れて学んだりしました。さらに、正確な植物画は自分しか描けないため、石版印刷所で印刷技術について学び、自分で印刷して本を出します。

富太郎は、植物学を研究するにあたり、自分自身が研究者としていかにあるべきかを考えぬき、自分への約束として次の言葉を記しました。(15のうちの4つ)

- ・精密を要す(いいかげんに済ませず、細かいところまできちんとする)
- ・書籍の博覧を要す(たくさんの書物を読み研究にいかす)
- ・よろしく師を要すべし(年齢や立場の上下にこだわらず、教をこうて学ぶ)
- ・ひろく交を同士に結ぶべし(知識を与え合う仲間をもつ)

幼いころから好きだった植物を研究し続けた富太郎は、まさに「自分のよさや可能性を広げ、主体的に協働的に学びに向かった人物」ではないでしょうか。



「自分のよさや可能性を広げ、主体的に学び向かうことのできる生徒の育成～個別最適な学びと協働的な学びを通して～」を研究主題として、令和4年度からスタートしたこの研究は、2年計画の2年次目となります。

特に今年度は、アフターコロナを見据え、「生徒同士のつながり、学校と地域とのつながりを取り戻す」として、研究主題に向けた授業改善や郡上おどりに関わる取組など、教職員が一丸となって取り組んできました。

「つながり」は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のキーワードでもあります。それぞれの教科において、知識と知識、知識と技能がつながって構造化されるように「見通しと振り返り」を充実させたり、仲間や教師などとつながってよりよい学びを生み出す「協働的な学び」を位置付けたりするなどの授業改善を行ってきました。

こうした取組による生徒の様相の変化は、牧野富太郎の言葉の姿と似ているように思います。

- ・精密を要す・・・学習の見通しをもち、深く学ぶまで取り組み続ける生徒
- ・書籍の博覧を要す・・・興味・関心をもって学び続け、自己の可能性を広げる生徒
- ・よろしく師を要すべし・・・仲間、教職員、地域の方などから進んで学ぶ生徒
- ・ひろく交を同士に結ぶべし・・・仲間と意見を交わし合い、課題解決に向かう生徒

コロナ禍においては、授業や学校生活における仲間との交流が制限されたり、地域の方から学ぶ場が激減したりするなど、協働的な学びの場が失われていました。今年度はこの状況を脱却し取り組んでまいりましたが、まだ多くの課題も抱えております。今回の公表会では、多くの方から広く意見をいただき、そのご指導を今後の本校の教育推進の糧としたいと考えております。

最後になりましたが、本校の研究推進に対して全面的に支援していただいた美濃教育事務所、及び郡上市教育委員会の先生方に深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

令和5年11月2日

郡上市立八幡中学校
校長 日置 保次

＜学校の教育目標＞

自学自治

進んで学ぶ生徒 思いやりのある生徒 強い意志でやりぬく生徒

＜生徒の実態＞

- ・ 凌霜（総合的な学習の時間）など自分の興味・関心のあることには進んで取り組むことができる生徒が多い反面、その他の授業では課題を発見し、どうすればできるのか、どうやって取り組んでいけばよいのかを考えることができなかつたり、自分が理解するためにはどうするとよいのか、その方法が分からなかつたりする生徒が多く、言われたことをやるだけの受け身の学習になってしまう弱さがある。
- ・ 自己の学びを実感できる生徒が増えているが、知識や技能の定着が十分ではない生徒も少なくはない。
- ・ 自分の考えを伝えるだけで終わり、互いの考えを深めたり、広げたりするまでには至っていない。

＜郡上市の方針と重点＞

◇「確かな学力」を養う授業改善

- ・ 一人一人の実態を踏まえて指導内容の重点化を図り、ICT機器（学習者用タブレット端末等）を効果的に活用し、少人数で学ぶことができる郡上のよさを生かしながら、自ら学び考えることの楽しさと学びの成果や意義について児童生徒が実感できる授業を行う。
- ・ 単元と単位時間のねらいや役割を明確にし、児童生徒が課題意識や課題解決への見通しをもち、自らの力で思考・判断・表現し、まとめや振り返りができる授業を行う。
- ・ 問題解決的な学習や体験的な学習を重視し、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の工夫・改善を通して、活用力や社会で役立つ力が身につく授業の充実を図る。

＜目指す生徒＞

自分の興味・関心を高め、仲間との協働を通して自己の学びを確かめたり、深めたり、広げたりして学びに向かう生徒。

＜全校研究主題＞

**自分のよさや可能性を広げ、
主体的に学びに向かうことのできる生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びを通して～**

＜研究仮説＞

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善として、生徒の興味・関心を高める導入や自分のよさや可能性に気付く振り返りの工夫をしたり、学習活動の質の向上を進めたりすることで、主体的に学びに向かう生徒を育成することができ、これから先の未来に生きてはたらく3つの資質・能力を相互に育成することにつながると考える。

研究内容（1）

興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫

研究内容（2）

自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫

- ①個別最適な学び
- ②協働的な学び

研究内容（3）

自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫

自分のよさや可能性を広げ、 主体的に学びに向かうことのできる生徒の育成

～個別最適な学びと協働的な学びを通して～

令和5年度（2年次） 郡上市立八幡中学校

I はじめに

本校の教育目標は、

自学自治

進んで学ぶ生徒
思いやりのある生徒
強い意志でやりぬく生徒

である。

「自学自治」の「自学」とは、課題や問題を自ら見つけ、解決のための方法と見通しをもって、自ら解決することができる生徒である。「自治」とは自分の生き方や社会をよりよくしようという願いをもって行動することができる生徒である。

この自学自治の姿は、学習指導要領に定められた3つの資質・能力である「学びに向かう力、人間性等」、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」をバランスよく身に付けた生徒の具体的な姿そのものであり、激しく変化し、未来を予想することが困難な社会を生き抜き、人生を豊かに生きる上で必要な姿であると考えられる。

II 研究主題

1 平成30年度～令和3年度の研究成果と課題

前回の公表会では、研究主題を「自ら学び、自分たちで創り出す生徒の育成～主体的・対話的で深い学びを通して～」として研究実践を発表した。その中で、深い学びを実現するために、単元や題材など内容や単位時間のまとまりをどのように構成するかを工夫し、各教科で明らかにした教科の特質を受け、各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせることができる学習過程とその中での手立てや深まりのある学習を把握する評価の仕方を工夫したりすることを実践してきた。そして、下記のような成果(○)と課題(△)が出てきた。

○各教科部において、見方・考え方、深い学びの姿を明確にしたことや、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を位置付けた単元（題材）指導計画を作成し、見通しをもつことで、生徒の思考のつながりや、単位時間のつながりを掴み、深い学びの実現

に向けた指導を行うことができた。

○単位時間において、深い学びの実現に向けて、意図的な交流の場を設定したり、交流の視点を示したりするなど、手立てを講じたことで、自己の考えや、作品等の変容を自覚することができ、深い学びを実現することができた。

△各教科において、生徒が何を学び、何ができるようになったのかをキーワードや例文を用いて記述する際に、個々の表現力による差が感じられた。誰もが自身の変容を自覚し、学びの深まりを感じられるような評価について、検証していく必要がある。
△生徒が自ら学び、獲得したものを次の学習につなぐことができるような指導について考え、指導と評価の一体化を図るための具体的な手立てや生徒へのフィードバックの在り方についてさらに検討していく必要がある。

2 目指す生徒

本校の生徒の実態として下記のような実態がある。

- ・自分の興味・関心のある学習には進んで取り組むことができる生徒が多い。その反面、課題を発見し、どうすればいいのか、どのように取り組んでいけばよいかを考えることができなかつたり、理解するための方法が分からなかつたりして、言われたことに取り組む受け身の学習になっている。
- ・自己の学びを実感できる生徒が増えているが、知識や技能の定着が十分ではない生徒も少なくない。
- ・自分の考えを伝えるだけで終わり、互いの考えを深めたり、広げたりするまでには至っていない。

これらの実態から、今年度は目指す生徒を下記のように設定した。

自分の興味・関心を高め、仲間との協働を通して自己の学びを確かめたり、深めたり、広げたりして学びに向かう生徒。

3 研究主題設定の理由

学習指導要領の改訂に伴って、これからの学校には一人一人の児童（生徒）が自分のよさや可能性を認

識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。(平成29、30年改訂学習指導要領前文)

また、教育課程全体や各教科などの学びを通して「何ができるようになるのか」という観点から、生きて働く「知識及び技能」、そして、その「知識及び技能」をどう使うかという、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育てていくことを目指している。「新学習指導要領の全面実施と学習評価の改善について」(令和2年10月文部科学省初等中等教育局教育課程課)

さらに、令和3年答申では、目指すべき新しい時代の学校教育(令和の日本型教育)の姿として「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」が提言された。その姿の具体として、ICTの効果的な活用や、個別最適な学び「個に応じた指導」(指導の個別化と学習の個性化)を学習者の視点から整理した概念)と協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められている。

(「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」(令和3年、中央教育審議会)

そこで、本校の研究主題を

自分のよさや可能性を広げ、
主体的に学びに向かうことのできる生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びを通して～

とした。

Ⅲ 研究仮説

この研究主題に迫るために、研究仮説を以下のように設定した。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善として、生徒の興味・関心を高める導入や自分のよさや可能性に気付く振り返りの工夫をしたり、学習活動の質の向上を進めたりすることで、主体的に学びに向かう生徒を育成することができ、これから先の未来に生きてはたらく3つの資質・能力を相互に育成することにつながると考える。

Ⅳ 研究内容

1 研究内容(1)

興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫

「～について読み取ろう」「～について考えよう」

「～について調べよう」という「行動目標」となる課題は、学習内容が明確でない為、学習のまとめや振り返りにつながらない。生徒が考える必然性を持ち、興味・関心(学習意欲)を高めるためには、「問いを引き出す」ことが大切であり、その「問い」を学習課題につなげていくことが必要だと考えた。

「問い」を引き出す為の「資料等の提示の仕方」や「活動の設定」の工夫として、以下のようなものを考えた。

〈これまでの研究のあゆみより例〉

- ・資料を少しずつ見せる。一部を隠して見せる。→資料の先を予想させる
- ・複数の資料を比較(対比)させる。→違いや変化(ビフォーアフターの対比)
- ・事象(現象)の理由を考えさせる。→特徴をおさえ理由を問う。
- ・結果一覧から決まりを見出させる。→規則性を問う。
- ・既習内容の事柄から未習内容の問題や事柄へ活動を移行し、新たな疑問を生む。
- ・分類したり、類別したりする活動の中で、どちらかわからないものを提示することで迷い(問い)を生む。
- ・条件を加え、負荷を与える。程よい無理難題で、解決への意欲を高める。

また、本時の課題について「なぜ、～」「どのように～」というように、生徒にとって問いのある課題を設定し、何を考えるか学習内容を明確にし、「課題」に対する「まとめ」「振り返り」になるように課題を吟味して設定した。

生徒から「問い」を引き出し、課題につなげることが難しい場合は、「今日は、こんな課題に取り組みたいのですが、どのような学習していけばよいだろうか。」「では、それぞれどんなことに気を付けて学習(製作)するか考えてみましょう。」と問うことで、自分なりの問いを生み出せるようにした。

また、単元の導入で、生徒が興味・関心を高め、学びの見通しをもつ為に、社会科では年表、理科では1つの事象から「疑問」を出させ、そういった疑問を単元の中で解決していこうという見通しや主体性をもたせている。また、実技教科では目指す作品や製品、合唱、動きなどの出口の姿を提示することで、「何を学んでいくのか」「どんな力を身につけていくのか」といった単元の見通しがもてるようにした。

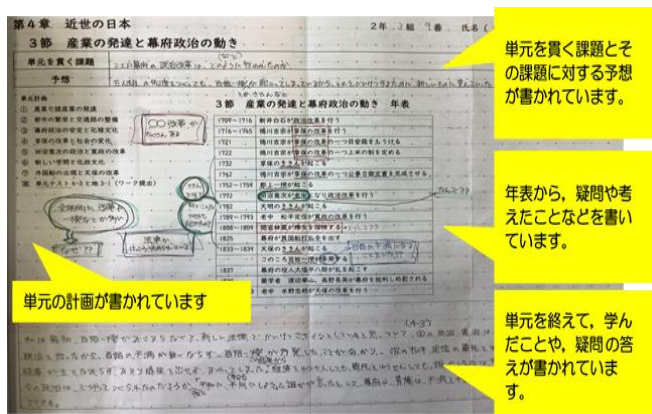
【社会科2年生近世の日本の実践より】

社会科では、歴史の単元の導入において、年表を活用して興味・関心を高めるようにした。年表を活用することで、これから学ぶ時代を大観させるとともに、「なぜ起きたのだろうか」「□□がきっかけで、△△が起きたのではないか」といった疑問や予想を引き出し、学級全体で共有することで、「単元を貫く課題」

を設定した。導入において、「単元を貫く課題」と「その予想」を生徒と共に立てることが、単元を通して主体的に学ぶ生徒につながっている。また、単元の見通しをもつために、単位時間の流れを生徒の学習プリントに位置付けた。

各単位時間では、共有した疑問を取り上げ、解決していく授業を仕組むことで、より主体的に取り組めるようになった。

単元の終末では、単元を貫く課題を設定した時の予想からどのように認識が変化したかを記述した。また、過去や現在とのつながりを考えたことで、生徒の認識に広がりや深まりが生まれた。



【英語科3年生 Lesson 3 The Story of Sadako の実践より】

英語科では、導入時にスモールトークという帯活動を位置付けた。前時までの学びや、単元の終末に行う「ALTに絵と文章を用いて、おすすめの本を紹介する」という言語活動に向かって、紹介に必要な力を鍛えようと考えた。

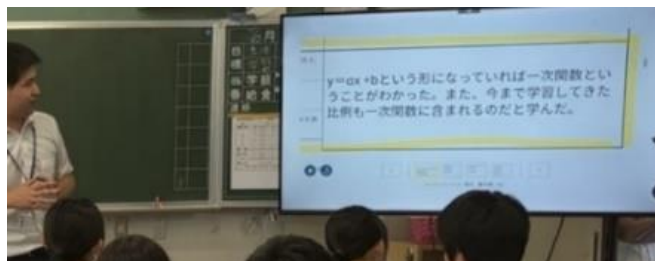


好きな有名人や好きな教科などのテーマを提示して、絵を指し示しながら、事実と考えを話す活動を位置付けることで、単元の出口の活動につなげた。また、本時に自分の心に残った場面を詳しく伝えるために、イラストを示しながら、各場面の事実や自分の考えを伝え、書きまとめる姿につなげることができた。

【数学科2年生1次関数の実践より】

数学科では、「式で比例も1次関数に含まれることがわかった」という振り返りを提示することで、本時の1次関数の表の特徴を比較することに焦点化する意識をもつことができた。

また、前時の生徒のまとめや振り返りを本時の導入につなげることで、単元とのつながりを意識させた。



2 研究内容(2)

自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫

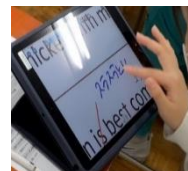
生徒の資質・能力の育成に向け、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図ろうと考えた。そこで、個別最適な学びでは、生徒の興味・関心に応じた学習課題や学習活動に取り組めるようにしたり、生徒の実態を踏まえた指導方法を工夫したりした。

協働的な学びでは、多様な他者と協働しながら考えを深めたり、仲間の考えの良さを感じたりすることで、自己有用感が高まるようにした。

(1) 個別最適な学び

【英語科3年生 Project2 の実践より】

英語科3年生 Project2 では、プレゼンテーションの発表に向けて、1人1人が自分の目指すところを確認できるようなセルフチェックシートを作成し、自己評価、相互評価を行った。その評価をもとに、よりよい発表ができるようにするため、それぞれに応じた学習方法を選択させた。ClipsやVoiceTra、カメラなどのICTアプリを活用し、発音をよりよくすることや、抑揚をつけた話し方を目指すことなどの目的に合わせて、個人練習に取り組むことができた。こうすることで、自分が何を高めたいのか、そのためにどうすればいいのかという、自らの学びを調整する意識をもって取り組むことができ、発表に向けて、生徒の自信につながった。



【美術科3年生心の中の世界の実践より】

美術科では、着色の単位時間の中で、自由進度学習を取り入れ、教師が計画している学習内容・時間の中で生徒一人一人が課題を自己決定し、自分のペースで計画し、学習を進められるようにした。自分のペースで計画し、自分の納得のいく着色を考えることで、タブレットを活用し動画で着色方法を調べる姿、静止画の参考資料を調べる姿、暗室で転写をする姿、表現方法を追究する姿、仲間や先生と協働する姿、スケッチブックをもとにイメージを再構成する姿が見ら

れた。自由進度学習により、生徒自身が自己調整していきながら、主体的に学び、自分の納得のいく表現を追究する喜びを感じることができた。



(2) 協働的な学び

【美術科3年生私の心の中の世界の実践より】

美術科では、以下の視点で仲間のスケッチを鑑賞することを通して、主題に合ったモチーフの構成や感情表現の仕方を考え、自分の発想・構想を広げる鑑賞の時間を設けた。そうすることで、仲間の主題に関わって「どうしてそう描いたのか。」「どうしてそう思ったのか。」など主題を見つめる発問を仲間同士で掛け合う姿や、その主題を聞いて、「自分ならこう表現する。」というアイデアスケッチをタブレットに描き、アドバイスし合い、発想・構想を広げることができた。



- ①. 自分の主題について話す。
「どんな心の中を表したいか」をできるだけ詳しく話し、アイデアスケッチを見せ、今決まっている表現について話す。悩んでいることやアドバイスして欲しいことがあれば話す。
- ②. ①をもとに班員みんなで、決まっていることをもとに、より主題にあった表現にする為に、**様々な造形的な視点のアプローチから、自分ならこうする。という案を5分間出し続け、相手にできるだけわかりやすく伝えよう。**
 - ★話し手に、付け足しや、自分はこう思うというものがあれば、**雑談的に**どんどん話していく。
 - ★制作者は、なるほどなど思ったことなどをスケッチブックにメモしていく。

(3) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ～ICTの効果的な活用を通して～

【理科2年生化学変化と原子・分子の実践より】

理科では、思考を整理するための学習支援として ICT を活用し、自分の結果と仲間の結果を比べ、見方や考え方を深めたり広げたりすることができる交流の工夫を行った。



化学反応を説明できるモデルを、ロイロノートのカードとして作成した。このモデルを共通の土台と

して、図を活用して矢印を書いたり、モデル内の原子の絵を動かしたりすることで、お互いの意見を理解しながら話し合うことができた。その中で、理科の専門用語を使う姿や数と種類に視点を当てながら話す姿が見られた。

【数学3年生2次関数の実践より】

数学科では、関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察する授業において、図形の移動がイメージしにくい生徒に対して、シミュレーションソフトを活用させ、何度も確認しながら関係を明らかにしていけるようにした。

また、ロイロノート内に以下のような表、式、グラフのそれぞれの手がかりとなるヒントカードを配布し、困ったときに自らヒントが見られるようにした。

<p>三角形の面積 = 底辺 × 高さ ÷ 2</p> <p>線分BGの長さをx cmとすると、線分BHの長さは？</p> <p>ヒント1</p>	<p>△BHGは直角二等辺三角形になる</p> <p>BG=BH</p> <p>ヒント2</p>	<p>線分BGの長さをx cm、△BHGの面積をy cm²とする時の表を作る</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>x</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>y</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>ヒント3</p>	x	0	1	2	y	0		
x	0	1	2							
y	0									

その後、協働的な学びの場を取り入れることで、自分の学びを仲間に説明する姿や、認める姿があった。

こうした個別最適な学びや協働的な学びで得た力を活用して、練習問題に進んで向かう姿が見られた。

問題

△BHGの面積が2cm²、9cm²になる時のxの値を求めなさい。



3 研究内容 (3)

自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫

自分のよさや可能性に気付いたり、次時の学びにつなげたりする為の振り返りとして、全ての教科で振り返りの視点を設定して、振り返りを行った。

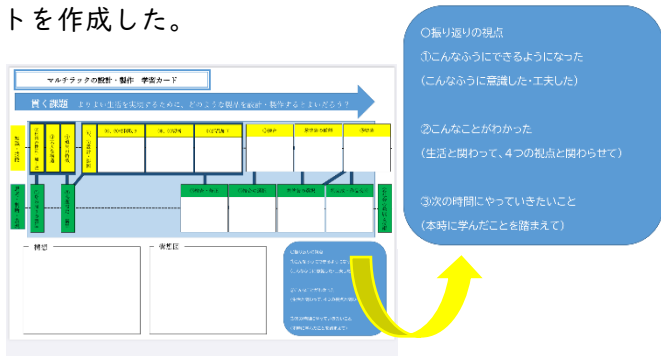
振り返りは、記述、対話、写真、評価問題、グラフ、学習した表現を使った文章など、様々な方法で、よさや可能性を実感できるようにした。

どの教科部も視点を明確にした振り返りを行い、振り返りカード内に視点を位置付けたり、黒板に視点のプレートなどを位置付けたりした。視点として以下のような視点を設定した。

- ①できたこと。わかったこと。
 - ②考えの変容
 - ③学んだ見方・考え方・新しい視点
 - ④日常生活とつなげて
 - ⑤次に学びたいことや疑問

【技術・家庭科1年生マルチラックの設計・製作の実践より】

技術・家庭科では、題材を通して、自己の考えの変容を客観的に捉えられるように学習記録の蓄積をするという明確な意図をもって以下のような題材シートを作成した。

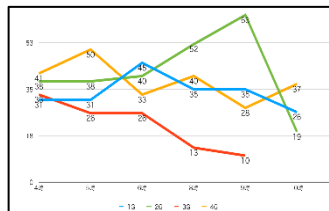


題材の時間の流れが一目でわかるように作成し、題材を貫く課題も明記することで、常に題材シートから、既習内容や次回の学びとのつながりに気付くことができるようにした。

また、単位時間の製作状況の変容や振り返りを写真や記述で積み重ね、学習の記録を残したり、その振り返りを視点①～③に沿って記述したりした。そうすることで生徒が自己の学びの変容や深まりに気付く、既習学習と関連付けて考えることができた。

【体育科2年生バレーボールの実践より】

体育科では、ICT を活用して、課題の達成状況を確認、技能の伸びをチームで実感できる振り返りの工夫を行った。試合でのセッターへの返球率と3本返球率の伸びを振り返りの際に提示することで、各チームの伸びをグラフで実感できるようにした。そうすることで、技能を伸ばすことへの意欲を高め、学習への関心・意欲を高めることができた。



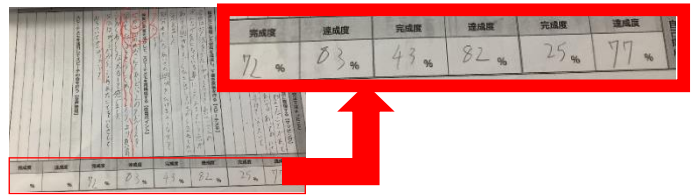
また、自分自身の成長に気付く為に、自己評価だけでなく、相互評価として、チーム内での対話に重点を置いた振り返りを行うことで自己課題に対する成長や、自身の伸びを自覚につなげた。

【国語科1年生「話の構成を工夫しよう」の実践より】

国語科では、達成度と完成度の2つの項目を設け、自己の学びの手応えを実感させるようにした。達成度は、単位時間の中での自分が目指したいところまでいけたか。完成度は、単元全体のゴールに対しての自分の原稿の仕上がり具合を自己評価で数値化するようにした。そうすることで、単元のゴールをイメー

ジしながら、自己調整をし、自分が求める表現に近くよさを感じることができると考えた。

また、話し方の再構成の時間では、自分の話し方が何によってどのように変わったかを動画で撮る活動を行った。それを見ながら完成度を振り返ることで、完成に向けての自己の変容を自覚する姿が見られた。



V 成果と課題

1 全国学力・学習状況調査 生徒質問紙より

令和5年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果は以下のようになっている。(一部抜粋)

No	質問	全国	県	本校	全校 9月
37	1、2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	79.2	85.3	76	89.6
39	1、2年生の時に受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか。	74.9	79	74.6	87.1
40	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	79.7	82.4	87.4	89.1
41	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	69.2	74.5	67.6	82.1

No. 37、39、40、41の質問項目に対して、肯定的に答えた生徒数が県や全国の数値を上回る結果となった。これは、全職員で「全校研究主題」や「目指す生徒」を共有し、一丸となって取り組んできた成果である。

また No. 37 の結果から各教科の目指す生徒に向かって、主体的な学びを実現するための手立てを講じたことで、受け身の学習ではなく、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいくことにつながったと考えた。

No. 39の結果からは、生徒自身が学習方法を選択できたことや、生徒一人一人に応じた学習活動に取り組む機会を設定したこと、また、全職員が生徒の特性に応じた指導・支援を心掛けたことが、「生徒の学びやすさ」につながったと考えた。

No. 40の結果からは、協働的な学びとして位置付けた「教科に応じた交流方法」や「交流の行い方」が効果的であり、自分と仲間の考えを比較したり、関連付けたり、まとめたりすることで、自分の考えを深めることにつながったと考えた。

No. 41の結果から振り返りの視点を与えたり、振り

返りの方法を工夫したりすることで、どの生徒も自身の変容を自覚し、伸びや成長を実感し、主体的に学習に取り組もうとする生徒が増えたと考えた。しかし No.41 については他の質問項目に比べて低い結果となった。単位時間だけでなく、各教科の目標としてある資質・能力がどのように、他の学習や普段の生活に生かされているかを実感できるようにする必要がある。

2 成果と課題

○自分のよさや可能性を広げ、主体的に学びに向かう生徒の具体的な姿を明確にし、導入、学習内容、振り返りを工夫することで、単元を通して興味・関心を連続的につなげ、主体的な学びの実現に向けた指導を行うことができた。

○生徒の興味・関心、疑問などが沸き起こる資料提示や活動を設定し、そこで生まれた「考える必然性のある問い」を学習課題に設定することで、生徒が見通しをもって学習に取り組むようになった。

○生徒自身が自分にとって最適な学びとなるように学習方法を選択できるようにすることで、生徒が興味・関心（学習意欲）を高めながら知識・技能を獲得していく姿が見られた。

ここで得た知識や技能を生かしながら交流することで、自分の考えと他者の考えを比較・分類・関係づけしたり、自分の考えを多面的に捉え直したりすることで学びが深まった。また、「他の授業でも使える」「社会に出てからも役立つ」ということを実感することで、「自信（自己有用感）」や「相互理解」が高まっていく姿が見られた。

○学習の振り返りの視点を明確にするとともに、対話活動、写真、自己・相互評価など教科や単元ごとに様々な振り返りの方法を工夫することで、自分のよさや伸び、可能性を感じさせることができ、主体的に学習に取り組もうとする生徒が増えた。

△単元指導計画については、生徒の思考のつながりや、単位時間のつながりを掴み、評価規準の A~C の姿を明確にし、個別最適な学びと協働的な学びの計画を位置付けたりするなど指導と評価の一体化を図っていく必要がある。

△生徒たちの興味・関心や疑問をもとにした単元構成や単元を貫く課題の設定など、より生徒が主体的に、見通しをもって学習に取り組む単元導入や単位時間の導入の在り方を検討していきたい。

△協働的な学びにおいて、対話する必然性のある課題の設定や学習内容に応じた交流方法、思考を深めたりする発問やツールの運用など学び方をさら

に検討していきたい。

(3) 今後の方向について

今回の研究の成果と課題から、主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善として、生徒の興味・関心を高める導入や自分のよさや可能性に気付く振り返りの工夫をしたり、学習活動の質の向上を進めたりすることで、主体的に学びに向かう生徒を育成することができ、これからの未来に生きてはたらく3つの資質能力を相互に育成することにつながるという確信をもつことができた。

2年間という短い期間の中での公表会となったため、各教科部で方向性を共有しながら、同じ方向に向かって進みだした2年目であった。今後はさらに生徒自ら主体的に学びに向かう力を高め、自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りや主体的な学習を促し、どの子も学びが定着できるように個別最適な学びと協働的な学びの在り方について考え、指導と評価の一体化を図っていきたい。また、各教科で身に付けた資質・能力がどのように、他の学習や普段の生活に生かされているかを実感できる姿を目指し、八幡中学校の教育目標である「自学自治」や新学習指導要領や令和の日本型教育で目指されている生徒の育成につなげていきたい。

【引用・参考文献】

- (1)「新学習指導要領の全面実施と学習評価の改善について」(令和2年10月文部科学省初等中等教育局教育課程課)
- (2)「第3期教育振興基本計画」(平成30年6月、文部科学省)
- (3)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成28年12月、中央教育審議会)
- (4)「学習指導要領前文」(平成29年7月、文部科学省)
- (5)「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(令和2年3月、文部科学省)
- (6)「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」(令和3年、中央教育審議会)

